

講義要綱

SYLLABUS

2026年度

柔整科

1

年

【基礎分野】

生物学
生命倫理
心理学
英語
栄養学
スポーツ科学Ⅰ
スポーツ科学Ⅱ

【専門基礎分野】

解剖学Ⅰ
解剖学Ⅱ
生理学Ⅰ
生理学Ⅱ
衛生学Ⅰ

【専門分野】

柔道整復理論総論Ⅰ
柔道整復理論総論Ⅱ
基礎柔整学
外傷学理論
柔整骨折理論Ⅰ
柔整骨折理論Ⅱ
物理療法学
柔整脱臼理論Ⅰ
柔整軟損理論Ⅰ
柔整包帯実技
柔整副木実技Ⅰ
柔整副木実技Ⅱ
柔整基礎実技Ⅰ
柔整基礎実技Ⅱ
柔整骨折実技Ⅰ
柔整骨折実技Ⅱ
臨床実習Ⅰ



学校法人 エイジェック学園

[授業科目]

生物学

1学年

[基本情報]

担当教員	坪島 功幸	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

生物学の理解を深めることで、解剖学・生理学の理解を促進できるよう知識を養う。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。 どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここで つまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	神経系：中枢神経と末梢神経 ニューロンとグリア細胞、大脳、脳室系	講義
2回	神経系：大 脳（区分と機能中枢、内部構造、大脳基底核、大脳辺縁系）	講義
3回	神経系：間 脳・脳幹	講義
4回	神経系：小脳	講義
5回	神経系：脊 髄Ⅰ（前根後根 灰白質）	講義
6回	神経系：脊 髄Ⅱ（上行伝導路 下行伝導路＝錐体路・錐体外路）	講義
7回	神経系：脳神経	講義
8回	神経系：脊髄神経（頸神経叢と枝 腕神経叢と枝）	講義
9回	神経系：脊髄神経（腰神経叢と枝 仙骨神経叢と枝）	講義
10回	感覚器：皮膚感覚	講義
11回	感覚器：視覚	講義
12回	感覚器：聴覚(外耳・中耳)	講義
13回	感覚器：聴覚・平衡感覚(内耳)	講義
14回	まとめと解説	講義
15回	まとめと解説	講義

[授業科目]

生命倫理

1学年

[基本情報]

担当教員	萩 名子☒		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	ヘルスカウンセリング学を専門分野とした歯科医師が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

医療従事者としての必要な実践的倫理観を身に付けるため、自らよりよい答えを導き出し、課題を解決していく活動通して、医療に関する倫理的諸問題を考える。

[評価方法]

単位認定試験・小課題、授業参加度（柔道整復師科規定の通り）

[教科書]

[参考書]

配布資料☒

随時提示する☒

[履修の条件・留意点]

講義を受けるだけでなく、自分自身で調べ、探索していく気持ちでの参加が必要です。☒

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	倫理学ガイダンスー倫理学とは・会話と対話	講義
2回	柔道整復師と医療倫理	講義
3回	と患者の権利・患者ー医療者関係	講義
4回	患者さんとのコミュニケーション1 リスニングとアサーション・ダブルリスニング	講義
5回	患者さんとのコミュニケーション 2 医療面接技法	講義
6回	患者さんとのコミュニケーション 3 患者さんの世界と動機づけ	講義
7回	患者さんとのコミュニケーション 4 説明する力ーわかりやすさと文章作成	講義
8回	課題1ーハラスメント 概要と法律	講義
9回	課題2ーハラスメント2 事例研究	講義
10回	課題3ーSOGIとニューロダイバーシティ	講義
11回	課題4ー最新医療・AIとロボット	講義
12回	課題5ー安楽死と臓器移植	講義
13回	課題6ー災害と医療倫理	講義
14回	医療人としての日常行動と自己調整	講義
15回	まとめ・解説	講義

[授業科目]

心理学

1学年

[基本情報]

担当教員	萩 名子☒	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	ヘルスカウンセリング学を専門分野とした歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

心理学は、自然科学、人文科学にとらわれず、精神や行動を研究する分野であり、着眼点や研究方法によって、様々な領域に分けることが出来る。本講義では、心理学の基礎を学び、それらが自分自身や人間関係など日常生活や仕事にどのように関係しているかを理解し、応用できることを目指す。☒

[評価方法]

単位認定試験・授業内小課題および授業参加度☒

[教科書]

[参考書]

ジョエル・レビー著「教えたくなるほどよくわかる 心理学の基礎講座」ニュートンプレス（2022）	随時提示する
---	--------

[履修の条件・留意点]

講義を聴くだけでなく「参加する」姿勢で臨むことを希望します。☒

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	心理学ガイダンス／アサーションスキル	講義
2回	動機と行動／支援者・指導者の自己理解と自己成長	講義
3回	気質と性格	講義
4回	感情と気持ち・リスニング演習	講義
5回	ストレスとストレスマネジメント	講義
6回	記憶と学習	講義
7回	行動目標とイメージ パフォーマンスアップへの応用	講義
8回	心理特性	講義
9回	意識と無意識	講義
10回	ウェルビーイングと運動／健康増進活動にむけて	講義
11回	感覚と認知／感覚の多様性	講義
12回	成長発達・多様性理解	講義
13回	メンタル不調と精神疾患の理解	講義
14回	コミュニケーションスキル演習	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

英語

1学年

[基本情報]

担当教員	星野 桂	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	高校で英語を担当していた教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

英語と日本語の構造の違いを理解し、英語という言葉の文法を習得することでどのような文章も五文型のどれに当てはまるかわかるようになること。そして、辞書等を用いて、どのような文章も読めるようになること。英語の医療専門用語がどのような語源から生じ、他の語とどのような関係性を持つかを理解し、一つの単語から多くの語を連想することができるようになること。☒
--

[評価方法]

・平常点 70％ ・テストの点数 30％

[教科書]

[参考書]

『やさしい医療英語(Medical English Clinic)』著者: 西原俊明, 西原真弓, Tony Brown 出版社: センゲージラーニング出版 定価: 1900円+税	特になし
---	------

[履修の条件・留意点]

毎回一課進むので、余裕のある人は予習してきてください。 余裕のない方はその場でやっていただいて結構ですが、私語の類は厳禁とします。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス	ガイダンス、暗記ではなく理解すること☒	講義
2回	unit 1	初診＆問診表☒	講義
3回	unit 2	診察室での基本会話＆ノロウイルス	講義
4回	unit 3	インフルエンザの症状＆タミフル	講義
5回	unit 4	痛みへの対処＆狂牛病	講義
6回	unit 5	胃痛＆摂食障害	講義
7回	unit 6	腹痛＆ホルモン攪乱物質	講義
8回	unit 7	尿検査＆市販薬	講義
9回	unit 8	コレステロール＆メタボリック症候群	講義
10回	unit 9	貧血＆バランスのとれた食事	講義
11回	unit 10	怪我＆ウォーキングの効果	講義
12回	unit 11	手術の準備＆入院手順	講義
13回	unit 12	アルコール中毒	講義
14回	unit 13	超音波検査	講義
15回	まとめ、解説		講義

[授業科目]

栄養学

1学年

[基本情報]

担当教員	馬上 美雪		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	高校教員として化学を担当した教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

栄養に関する知識を身に付ける。三大栄養素やビタミンなどの作用、各栄養素が含まれている食品についての知識を身に付け、選手や患者に対して適切なアドバイスが出来るようになることを目標とする。
--

[評価方法]

小テスト、本試験の結果による

[教科書] [参考書]

プリント、コンパクト栄養学	
---------------	--

[履修の条件・留意点]

随時、プリントを配ります。当日、必ず受け取ること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	栄養とは・・・栄養学概論（三大栄養素）	講義
2回	スポーツと栄養 五大栄養素（ビタミン、ミネラルとは）	講義
3回	糖質の化学（グルコース、フルクトースなど単糖類）	講義
4回	二糖類、多糖類（デンプンとグリコーゲン）	講義
5回	運動と栄養（基礎理論、蛋白質）	講義
6回	運動と栄養 スポーツ選手の競技力向上と栄養（蛋白質とアミノ酸）	講義
7回	運動と栄養 一般人の健康増進と栄養（エネルギーの指標、栄養素の指標）	講義
8回	脂質とは（中性脂質と極性脂質）	講義
9回	脂肪酸の種類（必須脂肪酸）	講義
10回	ビタミンの種類（水溶性ビタミンと脂溶性ビタミン）	講義
11回	ミネラルとビタミン欠乏症	講義
12回	食物繊維、水、核酸（DNAとRNA）	講義
13回	栄養所要量、健康づくりのための運動指針	講義
14回	運動と栄養、生活習慣病の予防	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

スポーツ科学Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	大屋 研志朗	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験があり、体育教員免許を持っている教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

トレーニング指導において必要な解剖学、生理学、栄養学、バイオメカニクスについての基礎知識を修得し、運動時の心理的变化、運動と疾患・傷害との関係性、緊急時の対応についての知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、能動的学習態度、単位認定試験の総合結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

なし	・トレーニング指導者テキスト実践編・改訂版 ・トレーニング指導者テキスト理論編・改訂版
----	--

[履修の条件・留意点]

随時、プリントを配ります。当日、必ず受け取ること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	機能解剖（1）上肢	講義
2回	機能解剖（2）脊柱と胸郭	講義
3回	機能解剖（3）骨盤と下肢	講義
4回	バイオメカニクス（1）基礎理論	講義
5回	バイオメカニクス（2）スポーツ及びトレーニング動作のバイオメカニクス	講義
6回	運動生理学（1）呼吸循環器系・エネルギー代謝と運動	講義
7回	運動生理学（2）骨格筋系・神経系・内分泌系と運動	講義
8回	運動と栄養（1）運動と栄養の基礎理論	講義
9回	運動と栄養（2）対象と目的に応じた栄養摂取	講義
10回	運動と心理（1）運動と心理の基礎理論	講義
11回	運動と心理（2）運動学習と指導法	講義
12回	運動と医学（1）生活習慣病	講義
13回	運動と医学（2）スポーツ傷害	講義
14回	運動と医学（3）救命救急法	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

スポーツ科学Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	大屋 研志朗	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験があり、体育教員免許を持っている教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

解剖学・生理学等の基礎医学的知識を活かし、トレーニング理論とトレーニング効果を理解することとする。また、その知識を実践に活かすことにより、競技力向上や健康づくりなど、さまざまな現場でトレーニング指導に携わることが可能となることを理解する。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

なし	・トレーニング指導者テキスト実践編・改訂版 ・トレーニング指導者テキスト理論編・改訂版
----	--

[履修の条件・留意点]

私語など他の学生に迷惑をかける行為は禁止とする

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業概要の説明	講義
2回	体力学総論	講義
3回	筋力トレーニングのプログラム作成	講義
4回	トレーニング指導者の役割	講義
5回	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
6回	トレーニング指導者の役割	講義
7回	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論プログラム作成	講義
8回	トレーニング計画の立案	講義
9回	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
10回	トレーニング計画の立案	講義
11回	ウォームアップ、クールダウン、柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
12回	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	講義
13回	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム	講義
14回	トレーニング効果の測定と評価の実際	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

解剖学Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

解剖学の理解と人体の基本的構造、骨格系についての知識を身に付ける。解剖学とはどのような学問かを理解し、人体の基本的構造を理解し、施術をあたる上で必要な知識を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで（西村書店）
------------------	---------------------------------

[履修の条件・留意点]

解剖学の知識、特に筋・骨格系は、今後、学習する柔道整復学（骨折、脱臼等）や運動学等でも必須の知識です。ここでつまづいてしまうと他の学問の学習が滞ってしまう恐れがあります。覚える量が大変多い科目ですが、医療者として最低限知っておかなければならない範囲ですので、集中して授業に臨んで下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス：解剖学の用語（人体の面と方向）、細胞の構造（細胞内小器官）	講義
2回	細胞の構造（核、DNA）、細胞周期、上皮組織	講義
3回	支持組織、筋組織、人体の発生	講義
4回	骨格系：総 論 骨の役割、骨の構造、骨の発生と成長	講義
5回	骨格系：総 論 骨の維持と修復、骨の連結	講義
6回	骨格系：関節の分類、関節の基本的構造	講義
7回	骨格系：鎖骨、肩甲骨、上腕骨	講義
8回	骨格系：橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨	講義
9回	骨格系：寛骨	講義
10回	骨格系：寛骨、大腿骨、膝蓋骨	講義
11回	骨格系：脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、趾骨	講義
12回	骨格系：脊柱の構造	講義
13回	骨格系：脊柱の連結	講義
14回	骨格筋系：脊柱	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

解剖学Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	40
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

人体の筋について理解する。筋の基本的構造を学び、筋の役割を理解する。各々の筋の作用、走行、支配神経を理解し、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで（西村書店）
------------------	---------------------------------

[履修の条件・留意点]

解剖学の知識、特に筋・骨格系は、今後、学習する柔道整復学（骨折、脱臼等）や運動学等でも必須の知識です。
覚える量が大変多い科目ですが、医療者として最低限知っておかなければならない範囲ですので、集中して授業に臨んで下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	骨格系：胸郭、骨盤の構造	講義
2回	骨格系：頭蓋骨の構造（脳頭蓋、顔面頭蓋）	講義
3回	骨格系：頭蓋底の構造、頭蓋骨の連結	講義
4回	小テスト①、筋系：筋の形態と構造、筋の作用、補助装置	講義
5回	筋系：上肢の筋（上肢帯、上腕の筋）	講義
6回	筋系：上肢の筋（前腕の屈筋、伸筋）	講義
7回	筋系：上肢の筋（手の筋）	講義
8回	小テスト②、筋系：下肢の筋（下肢帯の筋）	講義
9回	筋系：下肢の筋（大腿の伸筋、屈筋、内転筋）	講義
10回	筋系：下肢の筋（下腿の伸筋、屈筋、腓骨筋）	講義
11回	筋系：下肢の筋（足背、母指球筋、小指球筋、中足筋）	講義
12回	小テスト③、筋系：頭部の筋（表情筋、咀嚼筋、頸部の筋）	講義
13回	筋系：胸部の筋	講義
14回	筋系：腹部の筋	講義
15回	筋系：背部の筋	講義
16回	小テスト④	講義
17回	総復習①（骨格系～上肢の筋）	講義
18回	総復習②（下肢の筋～背部の筋）	講義
19回	総復習③	講義
20回	まとめ、解説	講義

2026年度 [分野] 専門基礎 / 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

生体を構成するもっとも基本的な細胞の構造・機能を学習するとともに、私たちの生命を維持する上でもっとも重要な生体の「恒常性(ホメオスタシス)」のメカニズムを理解するための基礎知識について学習する。さらに、身体の基本的構成要素である筋や骨の構造や機能を学習するとともに、全身を循環する血液やリンパの基本的な機能を学習する。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

社団法人 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）	
------------------------------	--

[履修の条件・留意点]

生理学は機能の理解が重要であるため、単なる暗記に偏らず、仕組みや因果関係を意識して学習すること。予習・復習を継続し、図表や授業資料を活用して理解を深めること。不明点は放置せず、その都度確認し解決する姿勢を求める。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生理学の基礎：細胞の構造と機能	講義
2回	生理学の基礎：DNA、遺伝子	講義
3回	生理学の基礎：代謝、エネルギー、体液、物質移動	講義
4回	筋骨格系：骨の構造と機能	講義
5回	筋骨格系：筋の構造と機能	講義
6回	心血管系：血液の成分と組成	講義
7回	心血管系：止血、血液型	講義
8回	心血管系：心臓血管系、心臓の構造と機能	講義
9回	心血管系：心電図	講義
10回	心血管系：循環調節	講義
11回	心血管系：血液循環系	講義
12回	生理学の基礎	講義
13回	筋骨格系	講義
14回	心血管系	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

生理学Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	淵ノ上 真太郎		単位数	2	時間数	40
実務経験 /関連資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

生理学Ⅰで学んだ知識をもとに、さらに、呼吸、尿の生成や排泄、栄養と代謝、消化と吸収の生理学的メカニズムやその意味について学習する。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

社団法人 全国柔道整復学校協会監修 生理学（改訂第4版）	
------------------------------	--

[履修の条件・留意点]

生理学は機能の理解が重要であるため、単なる暗記に偏らず、仕組みや因果関係を意識して学習すること。予習・復習を継続し、図表や授業資料を活用して理解を深めること。不明点は放置せず、その都度確認し解決する姿勢を求める。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	呼吸器系：呼吸器系の構造	講義
2回	呼吸器系：換気	講義
3回	呼吸器系：ガス交換と運搬	講義
4回	呼吸器系：呼吸周期と調節	講義
5回	腎臓・泌尿器系：腎臓の構造と機能/小テスト実施予定（範囲：呼吸器系）	講義
6回	腎臓・泌尿器系：尿の生成	講義
7回	腎臓・泌尿器系：腎血流量	講義
8回	腎臓・泌尿器系：排尿	講義
9回	腎臓・泌尿器系：腎臓による体液の調節	講義
10回	消化器系Ⅰ（消化と吸収）：生体に必要な栄養素/小テスト実施予定（範囲：腎臓・泌尿器系）	講義
11回	消化器系Ⅰ（消化と吸収）：消化器系とはたらき	講義
12回	消化器系Ⅰ（消化と吸収）：食物の消化と吸収	講義
13回	消化器系Ⅰ（消化と吸収）：各栄養素の消化と吸収	講義
14回	消化器系Ⅱ（栄養と代謝）：エネルギー代謝	講義
15回	消化器系Ⅱ（栄養と代謝）：栄養素の代謝	講義
16回	消化器系Ⅱ（栄養と代謝）：食物と栄養	講義
17回	免疫系：免疫の基礎、リンパ/小テスト実施予定（範囲：消化器系）	講義
18回	免疫系：免疫反応	講義
19回	生理学Ⅱのまとめ	講義
20回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

衛生学Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	最上 紀美子	単位数	2	時間数	30
実務/資格	博士号を持つ薬剤師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

衛生学・公衆衛生学について学ぶ。健康に関する正しい知識を身に付け、傷病の予防や健康の保持増進のためにどのような対策が取られているかを学ぶ。衛生学Ⅰでは、健康の概念、疾病予防と健康管理、感染症の予防、消毒、環境衛生について、柔道整復師にとって必要な知識を身に付ける。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

衛生学・公衆衛生学（改訂第6版） 南江堂	
----------------------	--

[履修の条件・留意点]

遅刻、欠席の取り扱いについては学則どおりとします。
授業で配布したプリントは保存するようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	講義
2回	健康の概念	講義
3回	健康の概念（衛生統計）	講義
4回	健康の概念（衛生統計）	講義
5回	疾病予防と健康管理	講義
6回	感染症の予防	講義
7回	感染症の予防	講義
8回	感染症の予防	講義
9回	消毒	講義
10回	消毒	講義
11回	消毒	講義
12回	環境衛生	講義
13回	環境衛生	講義
14回	環境衛生	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道整復理論総論Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	関 凌眞	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復学理論の骨折、続発症や後遺症の総論について理解する。施術の対象となる骨の損傷でどのような分類、症状があるのかを理解し、患者に説明できる知識を身に付ける。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果との総合判定による。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編	
-----------	--

[履修の条件・留意点]

授業中の私語・飲食は禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	柔道整復師の業務範囲	講義
2回	骨の構造と機能・骨損傷の概説（外傷性骨折・疲労骨折・病的骨折）	講義
3回	骨折の分類①（骨の性状、程度による分類）	講義
4回	骨折の分類②（骨折線の方法、交通の有無、外力の働いた部位による分類）	講義
5回	骨折の分類③（外力の働き方、部位、経過による分類）	講義
6回	骨折の分類 小テスト①（外傷性骨折・疲労骨折・病的骨折、骨折の分類）	講義
7回	骨折の症状・合併症①（併発症）	講義
8回	骨折の合併症②（続発症）	講義
9回	骨折の合併症③（後遺症）	講義
10回	骨折の合併症④（後遺症）	講義
11回	骨折の症状と合併症 小テスト②（骨折の合併症）	講義
12回	小児骨折	講義
13回	高齢者骨折・骨折の癒合日数・治癒経過	講義
14回	骨折の治癒に影響を与える因子	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道整復理論総論Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	関 凌眞	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復学理論の脱臼、軟部組織損傷の総論について理解する。施術の対象となる脱臼、筋、腱、靱帯などの損傷でどのような分類、症状があるのかを理解し、患者に説明できる知識を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果との総合判定による。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編	標準整形外科学、柔道整復学 実技編
-----------	-------------------

[履修の条件・留意点]

授業中の私語・飲食は禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、関節の構造	講義
2回	脱臼1 脱臼の定義、性状の分類	講義
3回	脱臼2 程度、位置による分類	講義
4回	脱臼3 数による分類、交通の有無、外力、時期、受傷後の分類	講義
5回	脱臼4 脱臼の症状、合併症、整復障害	講義
6回	小テスト① 脱臼5 脱臼の経過と予後、まとめ	講義
7回	関節構成組織損傷、靱帯、関節包の損傷、関節軟骨損傷、その他の関節構成組織損傷	講義
8回	筋損傷 筋の機能解剖、各分類	講義
9回	腱損傷 腱の機能解剖、分類、症状、	講義
10回	靱帯、筋、腱損傷	講義
11回	小テスト② 末梢神経損傷1 神経の機能解剖	講義
12回	末梢神経損傷2 神経損傷の分類	講義
13回	末梢神経損傷3 神経損傷の症状、治癒機序	講義
14回	神経損傷の分類、症状、治癒機序	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

基礎柔整学

1学年

[基本情報]

担当教員	青木 宏嗣		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験があり、柔道の指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復術を学ぶ上で必要な基礎知識を身に付ける。内臓の知識を習得し、骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷による内臓器損傷への理解を深める。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

生理学 改訂第4版（南江堂）	解剖学 改訂第2版（医歯薬出版） 柔道整復学理論編 改訂第6版（南江堂）
----------------	---

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。 どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	循環器：体循環と肺循環・心臓の構造	講義
2回	循環器：動脈	講義
3回	呼吸器：外鼻、鼻腔、副鼻腔	講義
4回	呼吸器：咽頭、喉頭	講義
5回	呼吸器：気管・気管支	講義
6回	呼吸器：肺、胸膜	講義
7回	泌尿器：腎臓	講義
8回	泌尿器：尿管、膀胱	講義
9回	泌尿器：尿道	講義
10回	消化器：口腔、歯、舌	講義
11回	消化器：食道、胃	講義
12回	消化器：小腸、大腸	講義
13回	消化器：肝臓、胆道	講義
14回	消化器：膵臓	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

外傷学理論

1学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

外傷の保存療法を理解する。外傷で起こる種々の怪我に対して、適切な保存療法を行える知識を身に付け、説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験にて60点以上を単位認定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定学

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中にしまうこと。
グループで協力して学ぶこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業概要の説明	講義
2回	固定について	講義
3回	基本包帯法	講義
4回	部位別包帯法	講義
5回	その他の包帯法	講義
6回	ギプス固定の実際	講義
7回	ギプス固定の実際	講義
8回	授業内小テスト1	講義
9回	ギプス固定の実際	講義
10回	テーピングの名称	講義
11回	授業内小テスト2	講義
12回	テーピングの実際	講義
13回	テーピング口頭試問	講義
14回	授業内小テスト3	講義
15回	まとめ・解説	講義

[授業科目]

柔整骨折理論Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

教科書およびプリント、パワーポイントでの授業実施、臨床に向けての理論を学び、臨床、実技につなげる。上肢の骨折について理解する。鎖骨から指骨までの骨折の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験にて60点以上を単位認定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第7版 実技書 他	
-----------------------	--

[履修の条件・留意点]

教科書および配付プリントは毎回持参する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業概要の説明、骨折とは	講義
2回	鎖骨骨折 1	講義
3回	鎖骨骨折 2	講義
4回	肩甲骨骨折 1	講義
5回	肩甲骨骨折 2	講義
6回	上腕骨近位端部骨折：外科頸骨折	講義
7回	上腕骨近位端部骨折：大結節・小結節骨折 小テスト 1	講義
8回	上腕骨骨幹部骨折 1	講義
9回	上腕骨骨幹部骨折 2	講義
10回	上腕骨遠位端部骨折：顆上骨折 1	講義
11回	上腕骨遠位端部骨折：顆上骨折 2 小テスト 2	講義
12回	上腕骨遠位端部骨折：外顆骨折	講義
13回	上腕骨遠位端部骨折：内側上顆骨折	講義
14回	上腕骨遠位端部骨折 小テスト 3	講義
15回	総まとめ	講義

[授業科目]

柔整骨折理論Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

教科書およびプリント、パワーポイントでの授業実施、臨床に向けての理論を学び、臨床、実技につなげる。前腕、手部の骨折の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験にて60点以上を単位認定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第7版 実技書	
---------------------	--

[履修の条件・留意点]

教科書および配付プリントは毎回持参する。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	前腕骨近位端部骨折1	講義
2回	前腕骨近位端部骨折2	講義
3回	前腕骨骨幹部骨折1	講義
4回	前腕骨骨幹部骨折2	講義
5回	前腕骨遠位端部骨折：コーレス骨折	講義
6回	前腕骨遠位端部骨折：コーレス骨折 小テスト1	講義
7回	前腕骨遠位端部骨折：スミス骨折	講義
8回	前腕骨遠位端部骨折	講義
9回	手根骨骨折1	講義
10回	手根骨骨折2 小テスト2	講義
11回	中手骨骨折1	講義
12回	中手骨骨折2	講義
13回	指骨骨折1	講義
14回	指骨骨折2 小テスト3	講義
15回	総まとめ	講義

2026年度	[分野]	専門	/	臨床柔道整復学
[授業科目]	物理療法学			1学年
[基本情報]				

担当教員	青木 宏嗣	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験があり、柔道の指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]					
種々の物理療法機器について理解する。電気療法、温熱療法、寒冷療法、光線療法、牽引療法についての効果、適応を理解し、使用方法や症状にあった機器を施術できる能力を身に付け、適切に説明できるようになることを目標とする。					

[評価方法]					
単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上欠席があった場合、学年末試験の受験は認めない。					

[教科書]			[参考書]		
柔道整復学・理論編			プリント配布		

[履修の条件・留意点]					
授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。					

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	診察（診察時の注意点・診察の流れ）	講義
2回	診察（評価・治療計画・施術録の取り扱い）	講義
3回	治療法① 整復法	講義
4回	治療法② 軟部組織損傷の初期処置・固定法	講義
5回	診察・治療法・整復法	講義
6回	後療法①（手技療法・運動療法）	講義
7回	後療法②（物理療法）温熱療法	講義
8回	後療法③（物理療法）寒冷療法	講義
9回	後療法④（物理療法）光線療法	講義
10回	後療法⑤（物理療法）牽引療法	講義
11回	指導管理①（松葉杖・洋服の脱ぎ着・アクセサリーの除去の仕方）	講義
12回	指導管理②（整復・固定・後療法の指導管理）	講義
13回	手技療法と物理療法	講義
14回	診察の実践	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔整脱臼理論Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	間中 朋美		単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

上肢の脱臼について理解する。各関節の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。小テストは2回行う。7割以下の場合、課題を提出する。
--

[教科書]

[参考書]

柔道整復理論 柔道整復実技	標準整形外科・柔道整復実技・骨折脱臼 X線写真のとり方と見かた
---------------	------------------------------------

[履修の条件・留意点]

① 教科書（柔道整復理論）は必ず毎回持参すること。
② 大事なことはプリントや教科書に随時書き込む。
③ 復習をきちんと行うこと。 分からないことはそのままにしないこと。
④ 万が一、プリントを忘れてしまったら、授業前までにクラスメイトに借りて印刷し、準備しておくこと。
⑤ 授業中はきちんとした姿勢で受講すること。 （なるべくその日の授業で理解しようと努力すること。）
⑥ 授業中は机の上に授業と関係ないものは出さないこと。（携帯・ほかの科目の資料）
⑦ 余計な私語は慎むこと。（授業に支障がある場合は退出とする。）
* 授業に参加していないとみなした場合は欠席とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	脱臼の定義 / 胸鎖関節脱臼	講義
2回	肩鎖関節脱臼①(発生機序・分類)	講義
3回	肩鎖関節脱臼②（転位・整復法・固定法）	講義
4回	胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼	講義
5回	肩関節脱臼①（解剖・分類・発生機序）/ 第一回小テスト	講義
6回	肩関節脱臼②（整復法・固定法）	講義
7回	肩関節脱臼③（合併症）	講義
8回	肩関節脱臼	講義
9回	肘関節脱臼①（肘解剖・分類・発生機序・整復・固定）	講義
10回	肘関節脱臼②	講義
11回	第二回小テスト/ 肘内障①（肘解剖・分類・発生機序・整復・固定）	講義
12回	肘内障② / 遠位橈尺関節脱臼①（分類・発生機序・整復）	講義
13回	遠位橈尺関節脱臼② / 月状骨・周囲脱臼①（解剖・発生機序・整復・）	講義
14回	月状骨・周囲脱臼②	講義
15回	単位認定試験、解答・解説	講義

[授業科目]

柔整軟損理論Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣	単位数	2	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

上肢の軟部損傷について理解する。解剖を理解した上で各組織損傷の発生機序、症状、治療などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編	プリント配布
-----------	--------

[履修の条件・留意点]

上肢軟部組織損傷について理解し、臨床で対応できる知識を養う。
臨床に対応出来る知識を養う。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	肩の軟部組織損傷(肩部解剖・腱板損傷)	実習
2回	肩の軟部組織損傷（上腕二頭筋腱損傷・SLAP損傷）	実習
3回	肩の軟部組織損傷（ベネット損傷・リトルリーガー肩・ルーズショルダー）	実習
4回	肩の軟部組織損傷（肩関節周囲炎・石灰性沈着・神経絞扼性障害）	実習
5回	肩部復習テスト	実習
6回	肘の軟部組織損傷（肘解剖・靱帯損傷）	実習
7回	肘の軟部組織損傷（野球肘・テニス肘・上腕骨外側上顆炎）	実習
8回	手の軟部組織損傷（手指解剖・TFCC損傷・キーンベック損傷）	実習
9回	手の軟部組織損傷（ドケルバン病・ロッキングフィンガー・ばね指）	実習
10回	手の軟部組織損傷（手～手指の変形）	実習
11回	肘・手部復習テスト	実習
12回	肘～前腕部神経損傷（正中神経）	実習
13回	肘～前腕部神経損傷（橈骨・尺骨神経）	実習
14回	神経まとめ・練習問題	実習
15回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

柔整包帯実技

1学年

[基本情報]

担当教員	五十嵐 貴仁	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道整復師・専科教員として経験を積んだ講師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

包帯法の基礎について学ぶ。柔道整復師としての基本技術である包帯の種類、名称を理解し、基本的な包帯の巻き方が出来る知識と技術を身に付ける。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定法	
-------	--

[履修の条件・留意点]

時間厳守。実習室使用の際は必ず白衣を着用の事。授業の際、使用する包帯セット、鉤は忘れない事。実技室での施術行為または飲食は禁止とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	全般の授業の進め方について	実習
2回	包帯の巻き方と注意事項、基本包帯法 P 8～P 2 1	実習
3回	包帯の巻き方と注意事項、基本包帯法 P 8～P 2 1	実習
4回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
5回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
6回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
7回	冠名包帯法 (デゾー包帯、ヴェルボー包帯、ジュール包帯) P 2 2～P 4 1	実習
8回	部位別包帯法：頭部、顔面部 P 4 2～P 4 7	実習
9回	部位別包帯法：上肢の包帯 P 4 8～P 5 3	実習
10回	部位別包帯法：上肢の包帯 P 4 8～P 5 3	実習
11回	部位別包帯法：下肢の包帯 P 5 6～P 6 6	実習
12回	部位別包帯法：体幹部の包帯、三角巾による提肘帯。 P 6 7～P 8 2	実習
13回	上肢の包帯(冠名包帯・基本包帯法)	実習
14回	頭部・体幹・顔面の包帯法	実習
15回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

柔整副木実技Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	五十嵐 貴仁	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道整復師・専科教員として経験を積んだ講師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

副木固定法の基礎について学ぶ。柔道整復師が使用する副木固定の種類、名称を理解し副子の選択、作成、固定の方法と手順について知識と技術を身に付ける。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定法	
-------	--

[履修の条件・留意点]

時間厳守。実習室使用の際は必ず白衣を着用の事。授業の際、使用する包帯セット、鋏は忘れない事。実技室での施術行為または飲食は禁止とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業の流れガイダンス・実技道具の配布と説明	実習
2回	厚紙副子、すだれ副子の作成及び包帯固定法 ① P 8 3～P 9 0	実習
3回	厚紙副子、すだれ副子の作成及び包帯固定法② P 8 3～P 9 0	実習
4回	金属副子（クラーメル金属副子）の作成 ≪上肢、下肢の作成と装着≫ P 9 1～P 9 3	実習
5回	金属副子（クラーメル金属副子）の作成 ≪上肢、下肢の作成と装着≫ P 9 1～P 9 3	実習
6回	アルミ副子（アルフェンス）の作成 P 9 4	実習
7回	アルミ副子（アルフェンス）の作成 P 9 4	実習
8回	熱可塑性キャスト材（板状）の作成 P 1 2 2～P 1 3 1	実習
9回	熱可塑性キャスト材（板状）の作成 P 1 2 2～P 1 3 1	実習
10回	絆創膏固定、テーピング固定① P 1 3 2～P 1 4 2	実習
11回	絆創膏固定、テーピング固定② P 1 3 2～P 1 4 2	実習
12回	絆創膏固定、テーピング固定③ P 1 3 2～P 1 4 2	実習
13回	固定具を用いての固定の実施（上肢）	実習
14回	固定具を用いての固定の実施（下肢）	実習
15回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

柔整副木実技Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	五十嵐 貴仁	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	柔道整復師・専科教員として経験を積んだ講師が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

ギプス固定の基礎について学ぶ。柔道整復師が使用するギプスの種類、名称を理解し作成、固定の方法と手順について知識と技術を身に付ける。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定法	
-------	--

[履修の条件・留意点]

時間厳守。実習室使用の際は必ず白衣を着用の事。授業の際、使用する包帯セット、鋏は忘れない事。実技室での施術行為または飲食は禁止とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	部位別包帯法：体幹部の包帯、三角巾による提肘帯。 P 6 7～P 8 2	実習
2回	石膏ギプスの作成① （下肢）	実習
3回	石膏ギプスの作成② （下肢）	実習
4回	石膏ギプスの作成① （上肢）	実習
5回	石膏ギプスの作成② （上肢）	実習
6回	プラスチックギプス（キャストライト）の作成① （下肢）	実習
7回	プラスチックギプス（キャストライト）の作成② （下肢）	実習
8回	プラスチックギプス（キャストライト）の作成① （上肢）	実習
9回	プラスチックギプス（キャストライト）の作成② （上肢）	実習
10回	各種包帯法(麦穂・折転・亀甲)	実習
11回	各種包帯法(螺旋・蛇行・冠名包帯)	実習
12回	アルフェンス固定、絆創膏固定	実習
13回	主にアルフェンス固定、絆創膏固定	実習
14回	固定具を用いての固定	実習
15回	まとめ、解説	実習

2026年度 [分野] 専門 / 柔道整復実技

[授業科目]

柔整基礎実技Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

触診に関する基礎について学ぶ。柔道整復師として基本となる骨の名称、場所を理解し、ランドマークとなる骨の触診が出来る基礎知識と技術の習得を目指し、検査測定と評価の基礎、ストレッチやテーピングなどの基礎的な技術の習得を目指す。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、身だしなみ、単位認定試験の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。実技試験にて50%、筆記試験にて50%の配点とし、合計で60%で単位取得とする。

[教科書]

[参考書]

	解剖学 テーピングバイブル 日本スポーツ協会AT コンディショニング理論
--	--

[履修の条件・留意点]

触診や各施術は誤って行えば害を加えることにも繋がる。
患者の身体を思いやり愛護的に行き、指示に従わない者には授業を辞退してもらう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	柔整基礎実技Ⅰの概要説明と骨格の基礎	実習
2回	筋肉の基礎と各骨のランドマークの触診と手技の基礎 腰下	実習
3回	各骨のランドマークの触診と手技の基礎 腰上	実習
4回	ストレッチの基礎知識	実習
5回	セルフストレッチ	実習
6回	下肢のパートナーストレッチの実技	実習
7回	上肢のパートナーストレッチの実技 ストレッチテストまとめ対策	実習
8回	テーピングの基礎知識 ストレッチテストまとめ対策	実習
9回	ストレッチ実技のまとめ	実習
10回	ホワイトテーピングの実技	実習
11回	下肢のテーピングの実技	実習
12回	上肢のテーピングの実技	実習
13回	テーピング実技のまとめ（足関節）	実習
14回	膝テーピング	実習
15回	総まとめ、解説	実習

[授業科目]

柔整基礎実技Ⅱ

1学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

触診に関する基礎について学ぶ。柔道整復師として基本となる筋肉の名称、場所を理解し、触診が出来る知識と技術を身に付ける。

[評価方法]

単位認定試験にて60点以上を単位認定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

解剖学 教科書

柔道整復学・理論編
解剖学

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中にしまうこと。
グループで協力して学ぶこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業概要の説明 全身の骨	実習
2回	上肢の筋(1)	実習
3回	上肢の筋(2)	実習
4回	上肢の筋(3)	実習
5回	上肢の筋(4)	実習
6回	下肢の筋(1)	実習
7回	下肢の筋(2) 小テスト1	実習
8回	下肢の筋(3)	実習
9回	柔道整復術	実習
10回	損傷の診察：観察 小テスト2	実習
11回	損傷の診察：問診	実習
12回	損傷の診察：触診	実習
13回	損傷の診察：機能的診察	実習
14回	小テスト3	実習
15回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ上肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技内容を理解する。上肢骨折の整復固定の技術を身に付けることを目標とする。また、実技における単位試験と共に2年次の臨床実習に備えて身に着けて於かなければならない事項を「臨床実習前施術試験」として考查を受けることとする

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、身だしなみ、単位認定試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 実技偏	プリント配布
-----------	--------

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯セット、ハサミを忘れない事。授業は常に白衣は着用する事。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中の机上に菓子、飲み物等を出しておかない。実技室は飲食禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	講義要項説明・認定実技審査について・鎖骨骨折（理論）	実習
2回	鎖骨骨折（理論・整復）	実習
3回	鎖骨骨折（整復・固定）8字帯＋三角巾 テーピング固定	実習
4回	鎖骨骨折 8字帯＋体幹固定	実習
5回	肩甲骨骨折（理論・固定）上腕骨近位部骨折（理論・整復・固定）	実習
6回	上腕骨外科頸外転型骨折（理論・整復）	実習
7回	上腕骨外科頸外転型骨折（整復・固定）	実習
8回	上腕骨外科頸外転型骨折（整復・固定）	実習
9回	上腕骨骨幹部骨折（理論・整復・固定）	実習
10回	上腕骨骨幹部骨折（整復・固定）ミッドドルフ三角副子	実習
11回	整復（鎖骨骨折 / 上腕骨外科頸 / 上腕骨骨幹部骨折）	実習
12回	固定（鎖骨骨折 / 上腕骨外科頸 / 上腕骨骨幹部骨折）	実習
13回	整復・固定（鎖骨骨折 / 上腕骨外科頸 / 上腕骨骨幹部骨折）	実習
14回	整復・固定（鎖骨骨折 / 上腕骨外科頸 / 上腕骨骨幹部骨折）	実習
15回	解説・まとめ	実習

[基本情報]

担当教員	泉澤 勝	単位数	1	時間数	30
実務経験 /関連資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、整骨院を開業している教員が指導する。				
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

座学で学んだ上肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。上肢の骨折の整復固定の技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験と進級試験も結果をもって判定する。
なお、前授業数の1/3以上の欠席があった場合、学年末試験の受験を認めない。

[教科書]	[参考書]
柔道整復学・実技編 改訂版第2版	

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯、ハサミなど必要なものは忘れない事。実技の時間は白衣を着用し、アクセサリーなど実技の邪魔になるものは外す事。実技室は飲食禁止です、また机上に飲食物を置く事も禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	オリエンテーション(シラバス説明・認定実技試験について)	実習
2回	固定材料の作成	実習
3回	上腕骨顆上骨折の理論	実習
4回	上腕骨顆上骨折の整復	実習
5回	上腕骨顆上骨折の固定	実習
6回	肘頭骨折の理論	実習
7回	肘頭骨折の整復	実習
8回	肘頭骨折の固定	実習
9回	コーレス骨折の理論	実習
10回	コーレス骨折の診察と整復	実習
11回	コーレス骨折の固定	実習
12回	総復習 上腕骨顆上骨折、肘頭骨折の固定	実習
13回	総復習 コーレス骨折診察と整復、固定	実習
14回	総まとめ 解説	実習
15回	総まとめ 解説	実習

2026年度 [分野] 専門 / 臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅰ

1学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介	単位数	1	時間数	45
実務経験 /関連資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

接骨院、整形外科、競技会場などで実習を行う。主に柔道、陸上の競技会場での救護実習を主体に行うことにより、外傷発生機序を通じて体験し、深く理解することを目的とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、中間評価、最終評価と臨床実習振り返りシートの記入をもって判定する。上記の全実習日程中、各自6回実習日を予定し、教務に連絡のこと。

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。 医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	千葉県武道館、講道館、日本武道館、東京武道館、駒沢陸上競技場、天台スポーツセンター、江戸川陸上競技場、整骨院などで実施	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習